

日本共産党の竹田えつ子です こんにちはニュース 議会報告



No.155 2021年11月第1週



くらしのご相談事
いつでもお声かけ
ください。

新型コロナ対策

臨時議会開かれる

11月8日(月)臨時議
会が開かれました。3回
目のワクチン接種にか
る補正予算、生産調整対
策事業として主食用米次
期作支援助成金など、総
額で約1億7000万円
の補正予算について審議
し全員賛成で可決しまし
た。

3回目のワクチン接種は 予約制度に、竹田えつこ は指定制度を要望

3回目のワクチン接種
は、2回目終了後概ね8
か月を経過した方を対象
に実施します。鴻巣市で
は、医療従事者が概ね来
年1月中旬頃から、高齢
者の方が概ね2月中旬頃
からの予定です。
1回目目と同様、コー
ルセンター・Web予約
サイトからの予約の方法
にしています。1回目の
予約では、高齢者の方が
ら電話が通じないなど大
変ご苦労された事例をた
くさんお聞きしました。
こうした経緯からも、竹
田えつ子は臨時議会で、
予約よりも2回目接種と
同じように指定制度にす
ること、変更する場合の
みコールセンターに連絡
する態勢にすることを求
めました。担当部長は、
課題が多くあり、より良
い方法を検討していきたく
いとしました。予約のサ
ポートを公民館で行うよ

コールセンター20回線を準備 (株)JTBが対応

う求めた結果、公民館と
検討することを約束しま
した。接種券・予約券は
来年1月より高齢者から
順次発送予定です。
(医療関係者をはじめ、
ワクチン接種チームの皆
さんなど関係者の皆さん
のご尽力に感謝申し上げ
ます)

予防接種健康被害調査 委員費を予算化

今回の補正予算には、
予防接種健康被害調査委
員報酬(19万2000
円)が計上されました。
2件の給付申請があり、
4名で調査、最終的には
国が認定することになり
ます。

市単独で主食用米次期作 支援助成金を計上

新型コロナ対策として
の外出自費で外食産業も
大きな影響を受けまし
た。こうした中で米の需
要が減少し、在庫過多に
なり米価が暴落していま
す。臨時議会で明らかに
なりましたが、県産米の
「彩のかがやき」は、60
キロ当たり2019年は
1万4909円、202
0年は1万2342円、
2021年は8000円
と暴落しています。
今回補正予算5936
万8000円は市の単独
補助として、30a以上耕
作をしている農家に対し
10a当たり3500円の
補助をします。市内在住
でJAに営農計画書を提
出していることが条件で
す。今後市は、JAから
データを取りたいだき該
する農家に申請用紙を送
る予定です。
市単独での来年度の支
援策も大事です。合わせ

11月8日現在の鴻巣市の新型コロナ ワクチン接種状況(12歳以上)

対象者	108,956人	
1回目接種	88,453人	81.2%
2回目接種	80,656人	74.0%

て米価暴落で「米作つて
飯食えぬ」状態を打開す
る必要があります。国に
対して対策を講ずるよう
意見を上げる考えが持て
るか質しましたが、前向
きな答弁はありませんで
した。
今回の在庫過多の最大
の要因は、ナショナルミ
ニマムにより、アメリカ
から毎年77万トンもの米
を輸入していることで
す。主食米を守るために
は、アメリカ言いなり政
治をやめて、日本の農業
を守る政策に転換するこ
とが重要だと強く感じま
す。

皆様のご意見・ご要望をお寄せください。要求実現のため一緒に力を合わせていきましょう！
〒365-0031 鴻巣市ひばり野1-30-18 ☎048-542-7072 FAX048-542-7101 携帯090-2553-5215
ホームページ 公式ウェブサイト <http://www.takeda-etsuko.com>



COP26 = 国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議から

英グラスゴーで開催中の国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議（COP26）英国が強く推す石炭火力発電からの撤退も焦点となりました。

温暖化対策に後ろ向きな日本

岸田文雄首相は2日、演説で石炭火力に固執する姿勢を表明。温暖化対策に後ろ向きな国に送られる「化石賞」を前回COPに続き受賞しました。岸田氏は石炭火力の「アジアでの重要性」に言及したものの、直後の4日には、英政府の脱石炭に向けた声明に、ベトナムやインドネシアが賛同。世界の流れに取り残された日本の姿が浮き彫りになりました。



（写真）デモ行進する若者ら＝5日、グラスゴー市内（桑野白馬撮影）

パリ協定は今世紀末までに産業革命からの気温上昇を2度より十分低く、できれば1.5度に抑える目標を定めています。5、6両日には、COP26に合わせて訪英した参加者や、地元の若者、全国都市一般労組（GMB）のメンバー約12万5千人が市内に集結。「1.5度目標を生きたままに」「ショーをやめて命を守って」一。参加者の多くが口にしたこの言葉に、世界の首脳陣がどう応えるのかが問われています。

気候危機打開 若者2.5万人 英 対策強化求めデモ

5日、「若者とパブリック・エンパワーメントデー」を迎えました。気候危機打開に向け行動する若者の団体「未来のための金曜日（FFF）」は市内のデモ行進を主催。約2万5000人が、抜本的な地球温暖化対策の強化を求めました。

COP26に合わせて訪英した幅広い国籍の環境活動家も列に加わりました。市内中心部の大通りを埋め尽くした参加者は「空の約束でなく行動を」「石油と石炭 いますぐやめて」と書いたプラカードを掲げ、「気候正義を、いま！」「たたかいは続く」と唱和しました。

デモ行進後の集会では、気候変動の危機に真っ先にさらされる南米の先住民団体や、途上国の環境活動家が自国の窮状を告発。「気候正義は、格差や差別をなくす社会正義の実現でもある」と訴えました。

スウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥンベリさんも発言。COP26を「いつも通りのビジネスを続け、自分たちの利益のために抜け道をつくるための祭典」と批判しました。